

講義名	職業指導				授業形態		
担当教員	川合 宏之	開講期・曜日・時限		後期 金曜日 2時限			
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード	
主題と概要							
「職業指導Ⅰ」に続く科目として、本授業では、職業指導の沿革を理解するとともに、主体的に職業を選択する能力を培い、望ましい職業観、勤労観を育成するための今日的な諸課題について、学校における職業指導のあり方を踏まえて、理論と実践の両面から検討する。							
到達目標							
専門高校の教員として、生徒のよりよい社会的自己実現に向けて、人間としてのあり方、生き方を探求する職業指導について、高等学校における教育活動の全体を通して、組織的計画的に推進するために必要とされる一般的知識を深め、具体的な技能について活用できるようになる。							
提出課題							
授業時に指示する。							
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法							
・演習・課題レポートについては、評価し授業の中で返却するとともに、要点や模範解答について解説する。 ・返却しないものについても授業の中で模範解答の解説と講評を行う。							
評価の基準							
演習・課題レポート（60％）、毎時の授業への参加度・積極性（40％）により総合的に評価する。							
履修にあたっての注意・助言他							
本講義は、教職課程の高一種（商業）免許の教科に関する科目「職業指導」の必修科目である。							
教科書							
・使用しない。							
参考図書							
・新版 キャリアデザイン支援と職業学習。		生駒俊樹・梅澤正		ナカニシヤ出版		2750	978477951622
・職業とキャリア：人生の豊かさととは・・		梅澤正		学文社		2530	978476201000
・学校から職業への迷走：若年者雇用保障と職業教育・訓練・・		中野育男		専修大学出版局		3080	9784881251331

その他		
その他、必要に応じて授業で紹介する。		
授業計画		
第1回：職業と産業 第2回：職業と労働市場 第3回：興味関心と職業適性 第4回：ワークキャリア・ライフキャリア 第5回：職業理解と自己理解 第6回：適職の探索 第7回：職業探索ツールの活用 第8回：自己理解の技法 第9回：職業理解の技法 第10回：職業能力開発 第11回：企業調査と研究 第12回：適職診断ツールの活用 第13回：職業興味適性の診断 第14回：職業技能と職業生活 第15回：職業指導の課題と展望 （注）項目や順序を入れ替えることがある。		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
予習：「授業内容」に示された各回のテーマに関して、図書館の書籍やインターネットを用いて調べておくこと。（2時間） 復習：授業中に配布された資料に関しては、授業後に再度読み、復習しておくこと。（2時間） 課題：宿題としてレポート提出が課された場合は、次の授業で提出できるように状態に仕上げてくること。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
本科目は、学校における職業指導のあり方を踏まえて、理論と実践の両面から検討することによって、本学の教育の目標である「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成する。さらに、生徒の職業意識を高めるための職業指導についての実践的素養を身に付けることができる。また、本科目は、マーケティング学科のディプロマ・ポリシーに関連しており、マーケティング動向、流通業界及び関連業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけておくことは、商業科教員として必要な要素である。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
大規模多人数同時参加型オンラインアンケートアプリを用いて理解度をチェック し、次回以降の授業の参考にする。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あり 元高等学校教諭の経験を活かし、学校現場での事例や実務上の留意点などを織り交ぜた講義を行う。		
備考		
日頃から職業と労働に関心をもって報道等に注意しておくこと。 学校教育における職業指導の展開について実践的な考察を深めること。		